



一歩ずつ進めることで、小学校から高校まで定着 したカンボジアの「新しい体育」

■ 実施団体：

特定非営利活動法人

ハート・オブ・ゴールド

■ 対象国・地域：

カンボジア王国・プノンベン都、
バタンバン州、スヴァイリエン州

■ 現地カウンターパート

- ・カンボジア教育・青年・スポーツ省スポーツ総局
- ・学校体育スポーツ局及び国立体育スポーツ研究所
- ・各都・州教育局および都・州下の郡の教育局

■ 協力内容：

- ・対象地域の小・中・高等学校の「新しい体育」普及計画を策定する
- ・普及計画に沿って「新しい体育」の普及ができる人材を育成する
- ・普及のためのコンテンツを開発し、対象地域で活用される

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・アンコールワット国際ハーフマラソン（1996年）を契機に団体を設立。スポーツを通じた国際協力活動を実施。
- ・2006年～2020年にわたり4フェーズに渡る草の根技術協力事業を実施。カウンターパートと共に小学校、中学校の学習指導要領及び指導書を作成。教育省大臣により認定された。
- ・2013年、カンボジアで初めてとなる運動会を実施。

■ 事業実施の背景：

- ・これまで実施した4フェーズの事業において、小学校、中学校の学習指導要領及び指導書を作成し、モデル校への普及を進めたが、都・州・郡が自立して普及していくためには、自分たちで普及計画を策定する必要があった。また、各都・州全ての小・中・高等学校に新しい体育を普及するためには、モデル校を選らばず、全ての学校を対象とした事業展開が必要であった。



カンボジア王国 体育の課題と成果

課題① 「知識・技能・態度」を育むことができる新しい体育の全国普及を目指しているが、普及計画の自己策定ができない。

成果① ・普及計画策定⇒教員へのワークショップ⇒モニタリングの実践⇒人材育成の評価の一連の流れを毎年実践し、教育局担当官自身で普及計画を立てられるように。
⇒SNSを使った体育情報の共有、開発アプリのシェア。
⇒これまでスポーツ大会に充てられていた体育・スポーツ予算が、体育普及のためのワークショップやモニタリング予算に充てられた。

課題② 授業中、生徒に笑顔はあるが発言はない。教師⇒生徒の一方通行の授業

成果② 教員研修のワークショップを通じて、教員同士が自由に意見や考えを述べ、積極的に発表するなど教員自身が変化。
⇒議論の時間を設け、できるようになるためには、勝つためには等、生徒自身で考え・議論する時間を設けるように。
⇒体育の授業において生徒が活発に意見を述べ合う、表現できるように変化した。教師⇄生徒の双方向の授業
⇒知識・技能だけでなく、協調性を含めた態度も育まれるようになった。

事業の波及効果



体育が楽しくなったことによる様々な変化

- ・学校の制服で授業を受けていた生徒がスポーツウェアを準備し、着用するようになった。
- ・子どもたちが「体育」を楽しむようになり、保護者らの寄附が集まり体育道具が増えた。
- ・体育専門の教員を配置する学校も出てきた。
- ・研修を受けた教員は、FacebookやTelegramを通して授業の工夫などを発信。意見交換や助言などをしあうようになった。大臣等も評価。事業対象地域の教育局担当官や校長、教員らがSNSに参加しており、1,000人を超えるグループもある。